

日本熱物性学会 2009 年第 2 回役員会報告 (HP 版)

日時：平成 21 年 4 月 25 日 (土) 13:00~17:00

会場：慶應義塾大学三田キャンパス 北館会議室 2

主な議題：

会長挨拶

諸岡会長より御挨拶があった。本日は議題が多いが忌憚りの無い意見をいただきたいとのこと。

1. 前回議事録確認

長坂事務局担当より前回議事録について説明が行われた。また、配布物ならびに役員名簿の確認が行われた。

2. 覚書の一部改定

長坂事務局担当より覚書の一部改定について説明があった。第 29 回日本熱物性シンポジウム (東京) の保管数を追記したとのこと。非会員への論文コピーの価格を 1000 円 (送料込み) に設定したとのこと。学会誌については、事務局に 3 冊保管し、残りを処分した旨の報告があった。諸先生方の御協力により、事務局在庫学会誌が通巻全て揃ったとのこと。第 26 回~28 回までのシンポジウム論文集は会員 2000 円、非会員 3000 円で安価に販売してはどうかという意見が出され、問題無く了承された。海外の会員への論文集、会誌の送料等を考慮した販売価格については事務局で判断するという事に決定した。

3. 平成 21 年予算案 (修正版)

長坂事務局担当より平成 21 年収支予算案 (修正版) について説明があった。これまでに未定であった研究分科会活動費ならびに 30 年記念活動費について記載したとのこと。研究分科会活動費の内訳は、マイクロ・ナノスケールの熱物性とシステムデザインが 5 万円、建物外皮の熱物性とシステムデザインが 0 円、生活環境懇話会が 5 万円、低温環境における熱物性の基礎と応用は 10 万円、宇宙材料の熱物性とシステムデザインは 10 万円である。佐藤春樹活動委員長より 30 年記念事業活動費に 200 万円程度の予算を検討している旨の説明があった。

4. 第 30 回日本熱物性シンポジウムについて

高橋実行委員長より、第 30 回日本熱物性シンポジウム第 2 回会告について説明があった。今回は米沢市が後援になったとのこと。講演申込期間、講演採否通知、論文投稿期間、事

前参加申込期間について決定した旨の説明があった。OSは9件になり、市民講座については山形大学の西岡昭博先生、敷島製パンの小松雅一先生にお願いしている。特別講演は山形大学の山本陽史先生、小山清人先生に御依頼しているとのこと。企業展示はスペースの都合上設営できないので、今回は「企業展示無し」を予定している。また、WSについても企画しない方向で検討している。講演論文執筆要綱ならびにテンプレートはウェブサイトからダウンロードできるようにしたとのこと。講演申込期間を2009年5月8日(金)に変更することが提案され、問題なく了承された。宿泊情報等を5月号の会誌に掲載することになった。

5. 第31回日本熱物性シンポジウム準備状況

藤井先生より、第31回日本熱物性シンポジウム準備状況について説明があった。現在、準備委員会を組織し、開催時期や会場について検討を行っているとのこと。医学部の100年講堂なども候補に入れながら今後検討していくことになった。実行委員長は高田保之先生にお願いし、開催期日は2010年11月17日～19日に決定することが問題なく了承された。

6. 第32回シンポジウムと熱測定とのジョイントについて

長坂事務局担当より、平成23年度熱測定シンポジウム(開催地:群馬)とのジョイントについて説明があった。ジョイント討論会については、群馬に熱物性学会会員がいないことから、開催が難しいとの意見が多くあった。両学会の交流を考えるとメリットも大きいと考え、今後は年度にこだわらずに熱物性学会の研究分科会などからオーガナイズドセッションをジョイントするような方向で、若手を中心に興味ある人が積極的に参加できるようなジョイント形式を検討していくことで了承され、今回は会期を合わせてジョイント討論会を開催しないことに決定した。

7. 各種委員会報告

編集委員会

吉田編集委員長より、編集委員会活動報告があった。特集記事、解説記事、さーもふいじしすと、めるていんぐぼいんと等を充実させていきたいとのこと。論文投稿件数が少ないために、是非投稿をお願いしたい旨の説明があった。J-Stageは今年度で最終募集となるが、引き続きアーカイブ化を行うと共に30年記念事業の中でも引き続きアーカイブ化を進めていくことに問題なく了承された。JSTの電子アーカイブ事業については、見送ることに決定した。

表彰委員会

藤井表彰委員長より、表彰委員会活動報告があった。今年度も選考委員会(表彰委員長、

会長、副会長、幹事)を組織し、内規に従って選考することが了承された。推薦する場合は、推薦書および申請書をPDFで申込みたい旨のお願いがあった。来年以降は、主要論文は3篇以内、申請書等はPDFで提出していただく方向で検討していくことに決定した。

熱物性サービス委員会

馬場熱物性サービス委員長より、熱物性サービス委員会の活動報告があった。データベースが充実しつつあり、アクセス状況も毎月4000~5000ページビューと非常に多くなってきているとのこと。コンテンツの更なる拡充に向けて、データの掲載をルーチン化できるようなシステムを検討していきたいとのこと。また、データベース活用セミナーや非会員にも公開できるようなデータコンテンツを検討し、会員の増強にも貢献したいとのこと。一方で、データベース専用会員のような案も検討しているとのこと。

広報委員会

宮崎広報委員長より、広報委員会活動について説明があった。ホームページのトップページデザインを見積もったとのこと。従来のWebARINA2からWebARINAXへアップグレード(料金の変更無し)したい旨の提案があり、問題なく了承された。また、ホームページリニューアルに際してのデザイン選定について、広報委員長に一任することが了承された。

研究分科会

マイクロ・ナノスケールの熱物性とシステムデザイン

宮崎オーガナイザーより、活動報告があった。ハンドブックの出版などについて編集委員会を組織して検討するとのこと。出版社と交渉する必要があるとの意見があった。

建物外皮の熱物性とシステムデザイン

長坂事務局担当より、活動報告があった。

低温環境における熱物性の基礎と応用

田中オーガナイザーより、活動報告があった。今期は3回の研究会の開催を予定しているとのこと。

8.30年記念事業について

佐藤春樹企画委員長より、30年記念事業について説明があった。30年記念企画実行委員会(準備委員会)を開催し、意見交換を行ったとのこと。記念誌、記念講演会ならびに記念パーティを計画している旨の説明があった。研究・開発当時の写真などを盛り込んだ年

表や学会創設秘話などをコンテンツとした記念誌が良いとの意見があった。記念パーティを第 31 回シンポジウムと合同で開催するかどうか等、第 31 回シンポジウム実行委員会と合同で検討することに決定した。また、高田保之先生に 30 年記念企画実行委員会委員をご依頼することになった。予算については、30 周年記念事業（記念誌、記念講演会等ならびに学会誌ならびにニュースレターのアーカイブ化）に 2 年間で最大 200 万円程度を計上することに問題なく了承された。

9．シンポジウム論文集の在庫状況について

長坂事務局担当より、事務局で保管しているシンポジウム論文集の在庫状況について説明があった。各先生方の御協力により全て揃った旨の報告があった。

10．論文誌のデジタル化について

長坂事務局担当より、説明があった。30 年記念事業の一環である講演論文集のアーカイブ化について業者に見積もったとのこと。エクセル形式で表にまとめられ、収録 PDF ファイルを検索機能により検索できるとのこと。データは CD-ROM に収められ配布・販売される予定。

11．共催・協賛関係

長坂事務局担当より、共催・協賛関係の報告があった。

12．名簿の発行について

長坂事務局担当より、名簿の発行について説明があった。個人情報保護の問題もあり、事務局でどのような形式で発行するか検討することで了承された。

13．会員異動

長坂事務局担当より、会員異動の報告があった。

14．その他

長坂事務局担当より、シンポジウム「学協会の新公益法人制度への対応の現状と課題」について説明があった。本学会においても公益法人化について方向性を検討していかなければならないことを改めて確認した。

長坂事務局担当より、ATPC2010 のアナウンスがあった。

佐藤譲先生より、熱電学会とのジョイントについて説明があった。正式な依頼があったわけではないが、今後合同シンポジウムやセッションなどを開催したいとのこと。まずは、

協賛として関係を構築し、オーガナイズドセッションなどの形でジョイントできることを積極的に検討していくことに決定した。

第30回日本熱物性シンポジウムにおける学生優秀プレゼンテーション賞の表彰を例えば新旧役員顔合わせ等シンポジウム開催期間中にできないかどうかという意見があり、実行委員会で検討することになった。

以上